



〈写真：下石小学校〉

学びのICT

タブレット端末を活用した新しい授業のカタチ

新型コロナウイルス感染症の影響で前倒しされた^{ギガ}GIGAスクール構想。市内の小中学校でも1人1台の学習用端末（タブレット端末）と高速大容量の通信ネットワークとの一体的な整備が進められています。

Society5.0を生きる子どもたちにとって、タブレット端末は、これまでの鉛筆やノートと並ぶ学習道具の1つとなります。

学校は新しい授業のカタチをどのように受け入れ、教育はどう変わっていくのでしょうか。

市では、今年度から学びのICT支援室を開室し、子どもにとって大切なことは何かを考えながら、取り組みを進めています。今回の特集は、動き出したICT教育の様子をお伝えします。

▶GIGAスクール構想

1人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、これまでの学校教育と組み合わせることで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、その能力を最大限に引き出そうとする文部科学省の構想

▶Society5.0

AIやロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿

▶ICT

Information and Communication Technologyの略。パソコンやスマートフォン、タブレットなどを活用した情報処理や通信技術のこと



interview

ICTで学びの
スタイルが
変わります。

土岐市ICT企画委員会
岐阜大学教育学部 准教授 福岡 大輔 先生

2021年度は「教育のICT元年」と呼ばれ、学校教育における大きな変革の幕開けを迎えています。新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、児童生徒への1人1台の情報端末の整備と、校内LANの整備、プログラミング教育などの取り組みが行われています。これまでの一斉授業による受動的な学びのスタイルから、ICT機器を活用した児童生徒一人一人に合わせた細やかな学習（個別最適化された学習）、児童生徒の主体的で対話的な深い学びを促す学習へと、子どもたちの「学び」のスタイルが変容しています。将来を担う子どもたちの、新しい「学び」がスタートしています。

分からない言葉をたくさん調べられて便利だと思う。(小学6年・女子)
辞典より速く調べられるので、授業の時間が増える。(小学6年・男子)
復習を自分のペースでできるから便利。(小学6年・女子)
キーボード入力はタイピングの練習になる。5年生までにローマ字を読めるようになり、覚えておいてよかった。(小学6年・男子)
クラスの人々と良いところを話し合っ上手に使いたい。(小学6年・女子)
初めて授業で使ったときは、「ワッ」と思った。知識に役立つよう使いたい。(小学6年・男子)

これまでパソコン室でしかできなかったことが、Wi-Fiが繋がりと、教室でも体育館でもできるようになりました。タブレットを使う授業では子どもたちがいつにも増してやる気に満ちて学習に向かっています。(土岐津小・6年生担任)

わが子の将来を考えるとタブレットを扱う力を付けなければと考えていました。学校でICTに触れることは、とてもありがたいです。今後、親として何が出来るか考えていきたいです。(中学生保護者)

iPadのZoomアプリで全校集会を行いました。教室にいて、離れている中でも、さまざまな意見を出し合うことができ、印象に残る全校集会となりました。今後も生徒総会や体育祭の取組でも利用できたらいいと思います。(土岐津中3年・生徒会)

英語の町紹介のプレゼンテーションでiPadを使いました。パソコン室でするよりもスムーズで簡単にできました。分からない単語なども、一緒に調べることができたので便利でした。これからもたくさん活用していきたいです。(中学3年・女子)



オンライン集会も
やってます。
(土岐津中学校)



学びのICTを支援します。

市教育委員会は、今年度より「学びのICT支援室」を開き、タブレット端末を利用した授業を中心とするさまざまな教育活動を支援する体制をつくりました。

専門家による市内の先生を集めての研修や、ときには学校に出向き先生方のサポートを行うなど、ICTの積極的な活用を促すことを通して、児童生徒の学びを充実させたいと考えています。

☎ 教育委員会学びのICT支援室（内線368）



学びのICT支援室を開室

土岐津小学校

- 1 近くの仲間と教え合う。課題に向き合っ取り組む。
- 2 タブレット端末は、児童が使いたい時に使えるよう、教室に置いてある。
- 3 タブレット端末を使って調べたことを発表。調べ方もいろいろ、気が付くこともいろいろ。
- 4 児童が調べている間に先生が黒板に書く。児童はその時間を待たず調べ学習を続ける。授業の時間を有効に使う。



泉中学校

- 1 動画などデジタル教材にアクセスするためのQRコード。
- 2 QRコードを読み込むとデジタル教材が視聴できる。
- 3 一人一人の学習状況や進み方に合わせてデジタル教材を自主的に活用。
- 4 取材した授業は黒板を使うことなく進んだ。生徒同士が理解を共有し、学習の気付きをそれぞれのタブレット端末に入力。

生徒が主役 × (かける) ICT

ICTを使う授業でも、学習の中心は子どもであることに変わりはありません。タブレット端末を使うことにより、子どもたちの主体性をさらに引き出した授業が実現できます。そのために、子どもたちが、タブレット端末を文房具の1つとして、必要な場面で、必要に応じて使えるような授業を考えています。

新しい取り組みですから、戸惑う先生もいますが、子どもたちはタブレット端末を積極的に活用し、私たちの想像を超えた新しい発想をする姿を何度も目にしました。子どもが主役となる授業をこれからも追究したいです。

泉中学校 片山 侑希 教諭

